

定時総会 全議題を承認



5月27日(日)午後2時より、ホテルナゴヤキャッスル(今年2月に改称)天守の間にて、定時総会・情報交換会が開催された。

冒頭森川会長は、28年ぶりの制度改革について説明し会員の協力に感謝の意を表した。

神谷徳太郎(半田)・本田純緒(岡崎)両総務部員が司会を務めるなか、物故者(4名)に黙祷を捧げ、新入会員25名の紹介が行われた。新入会員代表として國領雄一会員(刈谷)が挨拶し、それに代えて森川会長が歓迎と激励の言葉を述べた。その後、長寿6名・喜寿7名の表彰に続き、愛知県医療功労賞1名と日整全国柔道大会功労賞2名の表彰が行われた。



祝電披露に続き、竹内健二(刈谷)・池村三行(中村)両支部長が正副議長に選任され、会員総数818名に対して305名が出席(委任状提出者461名・合計766名)し、過半数409名を優に超えるとして総会の成立が宣言された。

早川総務部長が平成29年度事業報告・附属明細書の報告を行ったあと、以下4議案について審議された。

第1号議案 平成29年度貸借対照表承認の件

第2号議案 平成29年度正味財産増減計算書承認の件

第3号議案 平成29年度貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書承認の件

第4号議案 平成29年度財産目録承認の件

議案は河合経理部長が説明し、金田監事が監査報告を行なった。4議案はいずれも挙手多数で承認された。

続いて、早川総務部長から平成30年度事業計画書について、河合経理部長から平成30年度収支報告書と資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類の2件について報告が行われた。

愛知県接骨師会共済会総会

本会総会終了後の午後3時20分からは愛知県接骨師会共済会総会が開催された。総会と同じく神谷・本田両総務部員の司会、竹内・池村両支部長の正副議長により、平成29年度事業報告や収支決算書、平成30年度事業計画(案)・収支予算書(案)が討議、承認された。

共済会総会終了後は、情報交換会までの空き時間を利用して、藤川副会長が6月1日から実施される料金改定に関する説明を行った。

情報交換会

午後5時から、今野雅信(刈谷)・大橋史孝(中村)支部総務担当の司会進行により、大村秀章県知事や河村たかし名古屋市長ら来賓56名をお迎えして、情報交換会が盛大に開催された。



森川会長は来賓に対し、柔整業界の大改革として実現した、柔整審査会・施術管理者の要件強化・柔整学校の教育改革の3つを挙げ、「皆様方の多大なるご支援ご協力の賜物と厚く御礼申し上げます」と謝意を述べるとともに「確実に実行しそして信頼を取り戻す」と力強く挨拶した。情報交換会では恒例の協同組合抽選会も行われ大いに盛り上がるなか、午後7時10分過ぎに中締めとなった。

Welcome!! 新入会員

氏名	生年月日	支部	出身校	段位	趣味
加藤亮一	H5.7.8	鶴舞	米田柔整	-	サッカー



加藤亮一会員
(左から2番目)

笠寺支部2年連続4度目の栄冠

第11回愛知県柔道整復専門学校柔道大会
第7回(公社)愛知県柔道整復師会少年柔道形競技会
第39回(公社)愛知県柔道整復師会柔道大会

6月3日(日)、愛知県武道館第3競技場にて上記3大会が開催され、それぞれの大会で熱い戦いが繰り広げられた。



専門学校柔道大会は午前9時30分から11時20分まで、県内4校が参加して行われた。森川大会会長は学校間の交流や心身の健全育成など大会の趣旨を説明したうえ、「日頃の練習の成果をしっかりと発揮し、悔いのないよい思い出となる試合をしてほしい」と健闘を祈った。

試合は中和医療の安西夏希選手が選手宣誓をした後、7人制のリーグ戦で争われた。

引き分けが極めて少ない試合が続き、米田柔整は3勝を上げ見事4連覇10度目の優勝を達成した。また名古屋医健スポーツが前年度4位から準優勝に躍進。同校の久保博臣監督は、「1年生中心のチーム編成ですが、頑張ってくれました」と試合を振り返った。

少年柔道形競技会は午後0時5分より1時30分まで、9支部の代表選手により「投の形」で競われた。森川大会会長は、競技会の概要、全国大会に向けた予定を説明し、「落ち着いて自信を持って競技に挑んでいただきたい」と激励した。



緊迫した雰囲気の中競技が進み、間合いや体さばき、礼法の正確さに優る半田チームが7連覇を遂げた。

本会柔道大会は午後2時15分から行われた。森川大会会長は、「けがをしないように、明日の施術に差し障りのないように試合に挑んでいただきたい」と参加会員にエールを送った。

前年度優勝の笠寺支部青木保宏選手が力強く選手宣誓を行った後、試合が始まった。今回は不戦勝による対戦がやや多かったこともあり試合が早めに進んだ。

決勝戦は大曾根支部と笠寺支部が対戦。先鋒から副将までお互い交互にポイントを取り合い、2対2で迎えた大将戦は横井達典選手と青木保宏選手が対戦。両者一歩も譲らず引分けとなり代表戦にもつれ込んだ。代表戦は引分け同士(3分間のゴールデンスコア方式)で行うと規定されているため、横井・青木両選手が再び対戦。怪力の横井選手を実力で勝る青木選手が横四方固で抑え「有効」を取った。「解けた」の宣言がちょうど15秒目であり、わずか1秒の差で雌雄が決し、笠寺支部が2年連続4度目の栄冠を手にした。



この代表戦の戦いぶりは場内を大いに沸かせ、大会最後の試合にふさわしい盛り上がりを見せた。

【専門学校柔道大会】▷優勝:米田柔整▷準優勝:名古屋医健スポーツ
【少年柔道形競技会】▷優勝:半田(取:相川 源 受:牧園翔大)▷準優勝:鶴舞(取:山本倫久 受:宮沢知希)▷第3位:刈谷(取:杉江斗真 受:廣瀬行成)
【本会柔道大会】▷優勝:笠寺▷準優勝:大曾根▷第3位:一宮・岡崎
【東海ブロック会柔道大会選抜選手】監督:春日井和幸、大将:月野義明(半田)、副将:川邊俊博(大曾根)、中堅:春日井一義(笠寺)、次鋒:浅井友哉(一宮)、先鋒:下山徳大(笠寺) ※選手の都合により当日発表から一部メンバーを変更